

ともえ



行動する
はつらつたる
商工会議所



汐見坂

No. 119

函館商工会議所報
1991 — 5月号

はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。

みなさまの



函館信用金庫

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL 22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生町2丁目4番24号	TEL 73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52-0511(代)	えさん支店	亀田郡志山町字中浜115番の4	TEL 84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL 26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53-5521(代)			

Lhくみカードローン

20万円から200万円まで

使い方自由

らくらく返済

担保・保証人不要

★詳しくは窓口へ
お問い合わせ下さい。

あなたの預金で郷土を拓く。



函館商工信用組合

本店 函館市千歳町9の6 ☎(代)23-2101

- 湯川支店 ☎57-0572(代)
- 上磯支店 ☎73-2308(代)
- 美原支店 ☎46-9121(代)
- 十字街支店 ☎26-5544(代)
- 花園支店 ☎55-2110(代)
- 富岡支店 ☎43-1311(代)

視 点	1
会議所の動き	2
地域の景気	6
調査レポート	8
誌上講演	12
共済推進コーナー	14
テイタイム	15
アドバイザーコーナー	16
Q & A	18
ご案内	20

◇今月の表紙
汐見坂

函館護国神社下の坂で、現在函館山登山道路に通じる坂としても有名である。明治十四年（一八八一年）に、上に汐見町ができてから、その名をとったものである。汐見町は、当時、南新町というのを汐見・曙・寿の三町に分割して出来た町であった。汐見町は昭和四十年になくなり、現在は青柳町となっている。汐見坂は、その名の通り海の良く見える坂で、坂下には高田屋嘉兵衛像がある。

● 視 点

昨年より五日程遅れた開花宣言でしたが、それでも例年より一週間近くも早かった桜花も終り、野山の緑が目にしみるさわやかな良い季節を迎えました。

天気も良く、桜の開花とも重なった今年のゴールデン・ウィークには、空前の観光客の入込みがありました。しかし、これら増加する観光客を迎える観光地として、早急に対策をたて実施しなければならない問題点も、明らかにできています。その最大のもは道路と宿泊施設です。

道路については、函館と道南各地を結ぶ主要幹線は殆んど片道一車線であり、大きな行催事の時には渋滞がひどくなつてきています。特に峠下には新トンネルが開通したものの二車線よりなく、旧トンネルは補修のため使用できないので狭路は変わらず、さらに観光地での駐車場不足がこれに拍車をかけ、自動車での観光客は大変だつたようです。宿泊施設については、年々増加していますが、観光時期に完全に対応できるだけの余裕はまだありません。しかし、端境期のことを考えると過大な投資にも無理がありません。

いずれにせよ、長期的な展望のもとに、各方面からの政策的配慮が必要なのは申し上げる迄もないことです。只、鉄は熱い中にた、けといわれているように、好況の時こそ緊急を要する施策を中心に実施する必要があります。

地域の総合経済団体である商工会議所としての立場からも、これら緊急を要する施策は勿論のこと、長期的に推進しなければならぬ事業についても、強く要望してまいります。

会 議 所 の 動 き



道南商工会議所。 青函インターブロック協議会開催

◎道南商工会議所連絡協議会

きたる六月四日、小樽市において開催される第四十一回全道商工会議所大会に提出する案件等について協議するための道南商工会議所連絡協議会（函館・室蘭・苫小牧・登別・森・伊達・浦河七会議所）が四月二十五日室蘭市で開催され、本所から平野専務理事・中島理事が出席しました。

会議では、道南ブロック商工会議所の共通課題でもある北海道新幹線鉄道、北海道縦貫・横断自動車道及び高規格幹線道の建設促進をはじめ、空港並びに国道、地方道の整備促進問題や中小企業振興対策等を中心に活発な意見交換がなされたほか、各地域が抱える諸問題についても金融税制、商工振興、運輸観光、地域開発のそれぞれの分野別に整理したうえで、全道大会に提案することになりました。

同大会には本所より正副会頭をはじめ、議員有志が出席する予定です。

です。

◎青函インターブロック

交流圏構想推進協議会

青函インターブロック交流圏構想推進協議会の、運営と事業の円滑な推進をはかるための連絡会が去る四月二十五日、青森市で開催されました。

会議では、平成二年度事業報告及び収支決算並びに平成三年度事業計画及び収支予算案について協議し、原案どおり総会に提出することとしたほか、懸案の「青函

憲章」については、かねてより起草委員会で検討されてきましたが、この原案については協議会の推進委員会に諮り、総会で決定することになりました。

一方、平成三年度の事業計画のなかでは、シンボル事業として「青函青少年交歓会実行委員会」を組織して、七月二十八日から三十日にかけて青函地域の小学生（五・六年生）約五十名を募集し、松前町、上ノ国町および江差町において交歓会を実施することが計画されており、また、収支予算案では昨年度と同様、道・青森県及び各市町村の負担金（約三百五十万円）を収入財源としています。

今月27日は、本年度会費等の振替日です

本所では、平成三年度の会費、特別会費等を、五月二十七日にご指定の金融機関より口座引落しさせていただきますので、残高のご確認をお願い申し上げます。

なお口座振替の申込みのない方につきましては、従来通り振込用紙をご送付申上げましたので五月三十一日までにご納入下さい。また、ことしは本所議員改選の年です。選挙権・被選挙権は、年度会費および特定商工業者負担金を納付した事業所が有することとなります。この点をご留意され、期日迄に納入下さるようお願い申し上げます。

今年 は 本 所 議 員、改 選 の 年
し く み と 選 挙 に つ い て

本商工会議所議員の任期満了（九月三十日）にともない、七月から九月にかけて、議員の選挙・選任が行われますが、そのあらましについてお知らせ致します。

〔議員の構成〕

議員の定数は百名で、その選出方法は次のとおり区分されています。

- 三号議員
三号議員は会頭が常議員会の同意を得て、会員のうちから選任する議員で、定数は十五名、七月に選任されます。
- 二号議員
本所には業種別に六つの部会があり、会員（特別会員を除く）は主たる事業の内容に応じて、それぞれの部会に所属しておりますが、二号議員は、この各部会からそれぞれ選任される議員で、定数は三十五名、八月に選任されます。

なお、各部会ごとに出する議員の数は、部会員数や部会員の持口数等により常議員会で決定します。

す。

● 一号議員

一号議員は会員および会員以外の特定制業者が、投票によって会員のうちから選挙する議員で、定数は五十名です。なお、定数を超えない場合は無投票当選となります。

一号議員の選挙は九月に行われます。

〔選挙〕

会員は、会費一口について一個の一号議員の選挙権があります。ただし、一会員の選挙権の個数は五十個までとなっています。

なお、選挙権を行使するためには、選挙人名簿確定日までに、会費の年額を、また、会員以外の特定制業者についても負担金を納めなければ選挙権がありませんのでご注意ください。

また、会員は議員に選任または選挙される権利がありますが、次の事項に該当する人はその権利がありません。

ありません。

- ① 禁治産者または準禁治産者
- ② 破産者で復権を得ないもの
- ③ 禁固以上の刑に処せられ、その執行を終わるまでの者、またはその執行を受けることがなくなるまでのもの

④ 本所の地区内に引き続き六月以上営業所等を有しないもの

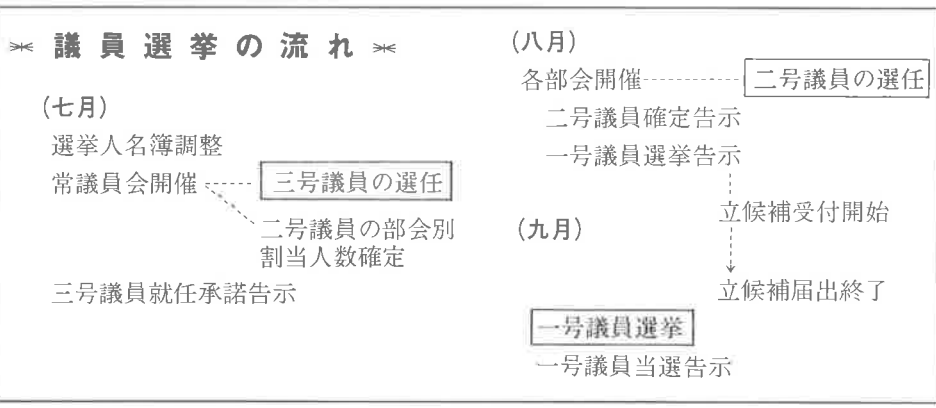
ただし、常議員会で特に加入の必要を認められた会員の場合は、この限りではありません

- ⑤ 選挙人名簿確定日までに会費年額を納めないもの
- ⑥ 特別会員

「特定制業者」とは、商工会議所法第七条により、毎年四月一日現在で本所の地区内に事業所があり、かつ六月以上経過している商工業者のうち、次に該当する方をいいます。

- ① 事業税等が年間四万八千円以上の法人または個人の商工業者
- ② 資本金または払込済出資総額が五十万円以上の法人

改選に関する主な事項につきましては以上のとおりですが、ご不明の点につきましては事務局にお問い合わせ下さい。



国民珠算競技大会 道南地区予選開催

去る四月二十八日、第四十五回国民珠算競技大会道南地区予選が函館並びに苫小牧の二会場で開催されました。

これは五月二十六日、京都市で開かれる中央大会への代表を選出するためのもので、両会場合わせて五十五人の選手が日頃磨いた技を競いました。各種目で熱戦が展開され、競技の結果栄誉ある「そろばん道南」



▲自慢の腕を競う参加者

の座は西谷誠一さん(室蘭清水丘高校教師)が勝ち取り、道南地区代表選手として中央大会に出場することになりました。

◎国民大会予選入賞者(函館分)
二位 高橋大輔(ラ・サール高)
三位 高橋聖学(教育大)
石井智昌(中部高)

団体の部一位 桐花中学校
二位 函館商業高校
三位 西中学校

また、同日は第二十三回全国小学生珠算競技大会も同時に開催され、二会場で六十三人が参加する中で、八木泰樹君(函館昭和小)が優勝しました。

◎小学生大会入賞者(函館会場分)

一位 八木 泰樹(昭和小)
二位 大川佳奈子(七重小)

三位 齊藤 弥佳(八雲小)
田中 純広(鷲ノ木小)

高橋 桃(〃)
山崎 秀和(中部小)

三木 啓恵(八雲小)
出村 友則(万年橋小)
得地 典絵(駒場小)

優良賞 川村友加里(湯ノ川小)

夏を呼ぶビッグイベント 五稜郭祭開催される

箱館五稜郭祭協賛会(川田寛会長)主催による「第二十二回箱館五稜郭祭」が、五月十二日の碑前祭・記念式典・ミスター土方コンテストを皮切りに、十八・十九日までの一週間賑やかに繰り広げられました。

ペリー来航から箱館戦争・五稜郭開城に至る幕末・維新の激動の歴史を彩った人物が登場するこの「祭」も本年度で第二十二回を迎え

今や、港まつり・冬のイベントとともに当市の三大祭の一つとして定着、また、歴史祭としても広く全国に知られたり、名実共に地域を代表する祭となっています。

さて、五月十二日の日曜には、碑前祭・記念式典の後、幕末に新選組副長として活躍し、この箱館で壮烈な最後をとげた「土方歳三」そっくりさんを選ぶ「ミスター土方」コンテストが行われ、市内の



▲四代目「土方」の山田さん

獣医師、山田豪さんが四代目のミスターに選ばれ賞金十万円を獲得しました。

また、十八・十九日の両日は、呼び物の維新行列と開城セレモニー、関兵式等が賑やかに繰り広げられました。維新行列の先頭には五稜郭を設計した武田斐三郎を始め、あの土方歳三の熱烈なファンである若い女性達などが各地から来函、それぞれ由緒ある羽織袴姿でパレードに加わりイベントを盛り上げました。

十九日には、市内の吹奏楽連盟を始め、関係各団体から総勢約千三百名が参加した吹奏楽パレードが行われ、夏を呼ぶビッグイベントに一層の花を添え盛会裡のうちに終了しました。



事務局日誌

4 月

*** 正副会頭会議**

- 10(水) 第66回正副会頭会議
- 23(火) 第67回

*** 会議 (道商連)**

- 8(月) 平成2年度経営改善普及及び補助金実績報告書の審査会

*** ブロック会議**

- 25(水) 道南商工会議所連絡協議会

*** 審査会**

- 11(水) 小企業等経営改善資金の審査会
- 24(水)

*** 諸会議**

- 1(月) ウラジオストク友好親善訪問実行委員会
- ◇ 所報「ともえ」No.118(4月号) 編集会議
- 3(水) 正副会頭と常議員との懇談会
- 5(金) (社)函館観光協会第4回総務委員会
- ◇ 管理職会議
- ◇ 箱館五稜郭祭賛会募金委員会
- 11(水) 市の交通事業を考える市民懇話会・現地視察
- ◇ 婦人会例会
- 12(金) 函館市地方港湾審議会
- ◇ 四共済事務連絡会議
- ◇ 四共済事業推進功労表彰式
- ◇ 四共済懇親会
- 15(月) 亀田・銭亀沢両商工会と本所との事務局会議
- 16(火) (社)函館観光協会理事会
- ◇ T A Xフェア説明会
- 18(木) 渡島地方技能尊重運動推進協議会理事会
- ◇ 婦人会社会研修会
- 19(金) 函館日米協会設立準備会
- ◇ みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会役員会
- ◇ 函館市五部局との打合せ
- 22(月) 北海道自衛隊退職者雇用協議会函館支部定期総会
- ◇ 四共済受託会社幹事会
- ◇ 婦人会広報委員会
- 23(火) 函館市社会福祉懇話会
- 24(水) 婦人会親睦委員会
- 25(木) 函館港利用促進協議会総会
- ◇ 青函インターブロック交流圏構想推進協議会連絡会
- 26(金) 国立函館大学誘致促進期成会第9回学部検討委員会
- ◇ 所報「ともえ」No.119(5月号) 編集会議

- ◇ みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会総会
- ◇ 第35回函館圏優良土産品推奨会表彰式
- 30(火) 第22回函館都市中心商店街近代化推進委員会
- ◇ 湯の川商店街近代化推進委員会報告会

*** 講習・催物**

- 5(金) 複式簿記講習会
- 9(火)
- 10(水) 経営相談
- 11(木) 平成3年度汚染負荷量・賦荷金申告納付説明会
- 12(金) 複式簿記講習会
- 16(火) 複式簿記講習会
- 19(金)
- 23(火) 経営指導員研修会
- ◇ 複式簿記講習会
- 24(水)・25(木) 甲種防火管理者資格取得講習会
- 26(金) 法律相談
- ◇ 複式簿記講習会
- ◇ 函館理容佐藤研修会「函館の将来と展望」
- 30(火) 複式簿記講習会

*** 刊行物**

所報「ともえ」No.118(4月号) 発行

*** 相談・診断**

金融 103 税務 15 経 理 9 経 営 47
労働 50 取引 0 その他 0 計 224

*** 貸 室 12**

*** 文 書 受 信 267 発 信 23**

*** 検 定**

- 28(日) 第45回国民珠算競技大会道南地区予選
- ◇ 第23回全国小学生珠算競技大会

*** 陳情・要望**

- 2(火) 大阪便増便お礼訪問
- 11(水) 北海道新幹線の建設促進に関する決議について

*** 慶弔・その他**

- 1(月) 函館財務事務所長との懇談
- 8(月) 旭川商工会議所婦人会10周年記念式典
- 12(金) 函館市消防本部新庁舎落成記念式典
- ◇ 函館どつく受注貨物船進水式
- 17(水) 小売商業協同店舗エフ・ロード新築工事起工式
- ◇ 湯の川観光ホテル新館「遊湯館」完成・増改築工事落成披露パーティー
- 20(土) みかと函館支店汐見亭開業内見会
- ◇ フィットネスホテル330函館内庭本産業(株)・N・Sワールド(株)内覧会
- 21(月) ベーリング海峡経由北極海航路についての懇談会
- 23(火) フィットネスホテル330函館オープニングセレモニー
- 24(水) 函館オルゴール明治館オープンセレブション
- ◇ 函館竹葉新葉亭新館オープン館内見学・披露宴
- 26(金) 函館シーポートプラザ、摩周丸オープニングセレモニー

69年の伝統と信用を誇る

早川特許事務所

特許、実用新案、意匠、商標、権利侵害

所長 弁理士 早川 政 名

〒112 東京都文京区白山5-14-7 早川ビル 電話 (03) 3946-0531 <代表>

発明相談 7月17日水曜日午後1時から午後5時まで。函館商工会議所で相談をお受けいたします。相談は予約制になっておりますので、商工会議所相談課(23-1181・内線63番)にお申し込み下さい。

(3)その他製造業

セメントは、高水準の国内建設関連需要を背景にフル生産態勢で臨んでいる。また合板では、高級薄物製品の引き合いが堅調裡に推移しており、新工場の立ち上げに合わせ現業要員の確保にも前向き。段ボールも、加工食品・青果物向けに順調な出荷を続けている。一方漁網では、引き続き受注減少傾向を辿っており全体の生産水準も前年を下回っている。

(4)建設関連

民需では、市内新設住宅着工戸数がマンション等の落ち込みから3か月連続して前年を下回っている(1~3月中の市内新設住宅着工戸数前年比△35.9%)ものの、その他需要は飲食店舗、倉庫等を中心に総じて堅調裡に推移。この間、3月の公共工事発注(管内主要5官庁)は国庫債務負担行為に基づき高水準となっている。

(5)漁業

噴火湾ホタテ漁は、水温上昇に伴う貝の成育の遅れを主因に前年を大きく下回る水揚げでほぼ終了したほか、漁期入りの近海マス漁も低調な滑り出しとなっている。

(6)消費関連

3月中の市内大型小売店(10か店)売り上げは、新入学セール奏功等から、雑貨、家庭用品等が順調な売れ行きを示したため、全体では前年比+5.5%と前月に比べ伸びを高めた。4月入り後も、衣料品、雑貨等を中心にまずまずの売れ行きを続けている。一方、耐久消費財では、家電販売が主力

オーディオ製品の不振等を映じ引き続き盛り上りに乏しい展開となっているほか、3月の乗用車販売も3か月連続して前年を下回った(前年比△8.2%)。この間、観光・レジャー面をみると、一部海外旅行からのシフト等も加わってホテル、観光施設とも前年を大きく上回る入り込みをみており、ゴールデンウィーク期間中の宿泊予約も好調。こうした中、ホテル、小売筋では、求人活動を積極化する先が少なくない。

3. 金融事情(3月中)

○実質預金は、大口定期等自由金利預金が金利低下等から約2年振りの小幅純減となったほか、金融費用の軽減を狙いとする企業の手元流動性圧縮の動きも引き続きみられたことなどから、月中209億円と前年(356億円)を下回る増加となった。一方貸出は、期末決済資金等運転資金を中心に月中363億円の増加(前年308億円増)となったが、設備需資は総じて一服の動き。

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、短期金利の利上げ浸透を映じ月中+0.014%の小幅上昇となった。

○銀行券は、新入学関係資金の支払い等から月中21億円の発行超となったものの、発行超幅は冬場行楽資金の順調な還流もあって、郵便局への支払い増加から高水準となった前年(発行超55億円)を大きく下回った。
○財政収支は、郵便局の支払いが前年を下回ったほか、租税、保険の受け入れが引き続き好調に推移したため、月中98億円と前年(58億円)を大幅に上回る受超となった。

3 月

平成 3 年 4 月 26 日

地域の

景気

—— 日本銀行函館支店 ——

1. 概 況

- 最近の管内景気をみると、足許の企業の売り上げ・生産は引き続き緩やかな増勢を辿っており、雇用情勢も一段と引き締りの様相を呈するなど、総じて堅調裡に推移している。
- すなわち、製造業では、一般機械の一部、漁網等で受注鈍化の動きがみられるが、電子部品、セメント等がフル生産を継続、造船、水産加工、乳製品等も高めの操業を維持するなど、大方の先が前年を上回る高水準の生産を続けている。一方非製造業では、建設は、住宅需要が分譲マンションを中心に前年を下回っているが、店舗等の増設や公共工事の発注もあって繁忙裡に推移。また個人消費も、乗用車・家電販売が盛り上がり欠けるが、百貨店売り上げは伸びをやや高めており、観光関連でも海外旅行からのシフト等も加わって好調な入り込みが続いている。
- こうした状況下、企業の中には、人手不足

感を訴える先が増加しており、管内においても雇用条件の改善等により求人活動に前向きに取り組む動きが漸次広範化。

- 3月の金融動向をみると、預金は自由金利預金の減少や企業の手元流動性圧縮等から弱含みに推移。一方貸出は、運転需資が底堅く推移しているものの、設備需資については引き続き一服の動き。この間、管内銀行の貸出約定平均金利は前月同様小幅上昇となった。

2. 主要業種別動向

(1)機 械

半導体では、次世代製品等を中心にフル生産を維持。水晶振動子も、国内携帯電話向け需要等が堅調なほか、輸出も持ち直しているため引き続き増産態勢で臨んでおり、パート補充に注力。また造船では、新造船の受注増加に加え、修繕船、陸上機械に対する引き合いも順調なことから、現有能力一杯の操業を行っている。一般機械は、製缶機械が高操業を続行中ながら、合板機械等では受注鈍化から繁忙感がやや緩和している。

(2)食 料 品

水産加工では、行楽需要等から出荷は順調な伸びを示しているが、ここにきて流通コストの上昇を懸念する先が増えている。また乳製品でも、練乳・粉乳の需給はタイトで高操業を続けている。飼料では、養殖用餌料の販売はまずまずながら、主力魚粉飼料等は前年を下回る売り上げとなっている。

て横ばいを予想している。

【製造業】

今期比D I 34.9、前年同期比D I 18.6と、いずれもD Iがプラスを示し、高操業が予想される。

細業種でみると、総じて横ばいまたは増産が見込まれ、特に水産加工業、飲食料品業、造船業では今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示している。

【卸売業】

今期比D I 34.2、前年同期比D I 24.4と、いずれもD Iがプラスを示し、業績好転が見込まれる。

細業種でみると、織物・衣服・身の回り品業が業績悪化を予想している以外は、総じて増額を見込んでおり、特に飲食料品業、医薬品・化粧品業、燃料業、一般機械器具業はいずれも今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示している。

【小売業】

今期比D I 26.7、前年同期比D I 31.8と、いずれもD Iがプラスを示し、売り上げ増加が期待される。

細業種でみると、自動車販売業が今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し業績

悪化を予想しているが、逆に各種商品販売業、衣服・身の回り品販売業、飲食料品業ではいずれもD Iがプラスを示し、売り上げ好伸が見込まれる。

【サービス業】

今期比D I 9.5、前年同期比D I 19.1と、いずれもD Iがプラスを示し、売り上げ増加が見込まれる。

細業種でみると、オフシーズンを好調に経過したホテル・旅館業と娯楽業では、今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、観光シーズンを迎えて益々活発化が見込まれる。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とみる企業9.0%に対し、「悪化」とみる企業8.4%で、D Iは0.6と若干プラスを示しているが、「変らない」とする企業が82.6%を占め、ほぼ今期並みに推移される見通しとなっている。

これを業種別にみると、建設業D I 8.3、製造業D I 0.0、卸売業D I 0.0、小売業D I 4.6、サービス業D I 4.7を示しているが、各業種とも約8割の企業が「変らない」と回答している。

統 計 資 料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高 (10店) 平成3月3月

品 名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣 料 品	4,037,296	175.4	101.7
身 回 品	866,262	175.7	105.3
雑 貨	1,047,387	130.3	122.6
家 庭 用 品	912,909	172.4	115.7
食 料 品	2,027,072	121.1	106.4
食 堂 ・ 喫 茶	195,629	140.5	104.9
サ ー ビ ス	150,564	148.9	144.3
そ の 他	451,961	119.9	82.2
総 計	9,689,080	150.9	105.5

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ダイエー五稜郭、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ダイエー湯川店の各店をいう。

比べ「好転」した企業9.9%に対し、「悪化」した企業11.0%でD Iは△1.1を示しているが、「変わらない」とする企業が79.1%を占め、ほぼ前期並みに推移した。

業種別にみても、建設業（D I 16.7）と小売業（D I 7.1）が好転基調だが、各業種とも大半の企業が「変わらない」と回答している。

5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、「求人難・人材難」をあげる企業が全業種で31.4%とトップを占め、次いで「売上げ・受注の不振」が15.1%となっている。

次に問題点を業種別にみると、建設業では「求人難」31.8%、「労務費の増加」27.3%、「景気の見通し難」13.6%。

製造業では、「求人難」32.6%、「人件費等経費の増加」28.3%、「売上げ・受注の不振」13.0%、「純利益の減少」10.9%。

卸売業では、「売上げ・受注の不振」22.0%、「純利益」の減少19.5%、「流通経費の増加」17.1%、「求人難・人材難」12.2%。

小売業では、「求人難・人材難」41.9%、「売上げの不振」16.3%、「純利益の減少」11.6%。

サービス業では、「求人難・人材難」45.0%、「人件費の増加」25.0%、「売上げの不振」・「営業経費の増加」がそれぞれ10.0%

以上のようにほとんどの業種で「求人難・人材難」がトップとなっており、特に小売業とサービス業では4割以上を占めている。

来期（4月～6月）の見通し

1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種で見ると、今期に比べ「好転」するとみる企業31.1%に対し、「横ばい」企業60.0%、「悪化」するとみる企業8.9%でD Iは22.2とプラス、また前年同期比でも「好転」するとみる企業22.5%に対し、「悪化」するとみる企業が8.4%でD Iは14.1とプラスを示し、好転が見込まれる。

業種別にみると、今期比では、建設業D I 24.0、製造業D I 25.5、卸売業D I 19.1、小売業D I 24.4、サービス業D I 14.3と、すべてD Iがプラスを示している。

また、前年同期比でもすべての業種でD Iがプラスを示しており、さらに来期業況見通しをみても業種間に大きな差もみられず、好転基調が予想される。

図-5 来期の業況見通し（対前年同期比）

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (14.1)	22.5	69.1	8.4
建設業 (8.0)	20.0	68.0	12.0
製造業 (6.5)	15.2	76.1	8.7
卸売業 (14.3)	21.4	71.5	7.1
小売業 (22.7)	31.8	59.1	9.1
サービス業 (19.0)	23.8	71.4	4.8

2. 売上額について

来期の売上げ見通しを全業種で見ると、今期に比べ「増加」するとみる企業35.4%に対し、「横ばい」企業53.2%、「減少」するとみる企業11.4%でD Iは24.0とプラスを示しており、前年同期比でも「増加」企業28.7%に対し、「横ばい」企業63.3%、「減少」企業8.0%で、D Iは20.7とプラスを示し、増額基調が見込まれる。

図-6 来期の売上げ見通し（対前年同期比）

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (20.7)	28.7	63.3	8.0
建設業 (0.0)	16.0	68.0	16.0
製造業 (18.6)	23.3	72.0	4.7
卸売業 (24.4)	31.7	61.0	7.3
小売業 (31.8)	38.6	54.6	6.8
サービス業 (19.1)	28.6	61.9	9.5

次に、来期の売上げ見通しを業種別にみると

【建設業】

今期比D I△4.0、前年同期比D I0.0と、今期比では若干マイナスを示している。

細業種で見ると、設備工事業では慎重な見方をする企業が多くなってきているが、総じ

次に売上額を業種別にみると

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I 23.1、前年同期比D I 20.0と、いずれもD Iがプラスを示している。

細業種でみても、引き続き各業種とも増加基調で推移した。

このように今期の建設業界は、マンション等の住宅建築が低調ながら、店舗や倉庫等の大型物件の伸びに支えられ活発に推移した。

【製造業】

今期の生産額は、前期比D I △23.4、前年同期比D I 0.0と、前期比ではD Iがマイナスを示している。

細業種でみると、飲食料品業、窯業・土石製品業、金属・一般機械器具業が前年同期比でD Iがプラスを示している以外は、総じて横ばいまたは減額基調にあり、好調を持続してきた水産加工業も季節的要因などから生産活動がやや鈍化している。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比ではD I △12.3とマイナスだが、前年同期比ではD I 17.0とプラスを示している。

細業種でみると、一般機械器具業、季節的要因もあり燃料業が上向いている以外は、総じて減額基調にあり、特に医薬品・化粧品業、建築材料業では前期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示している。

【小売業】

今期の売上額は、前期比D I 17.8、前年同期比D I 42.5とプラスを示し、前年同期比では過半数の企業が「増加」と回答している。

細業種でみると、各種商品販売業と衣服・身の回り品販売業が前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、売り上げを伸ばしており、さらに前期伸び悩んだ自動車販売業も新車登録台数の伸びを背景に増額基調で推移した。

【サービス業】

今期の売上額は、前期比D I 14.3、前年同期比D I 45.0とプラスを示し、前年同期比では過半数の企業が「増加」と回答している。

細業種でみると、クリーニング・理美容業、自動車整備業が横ばいながら、ホテル・旅館業、娯楽業はオフシーズンにもかかわらず、昨年を上回る伸びとなり、順調な観光客入込みが窺われ、今後の冬場観光への期待が持たれる。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (-3.9)	24.4	47.3	28.3
建設業 (8.0)	24.0	60.0	16.0
製造業 (-14.6)	20.8	43.8	35.4
卸売業 (-19.1)	21.4	38.1	40.5
小売業 (11.1)	33.3	44.5	22.2
サービス業 (5.0)	20.0	65.0	15.0

3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業17.6%に対して、「横ばい」企業48.3%、「減少」している企業34.1%でD Iは△16.5、また前年同期比でも「減少」企業28.3%が「増加」企業24.4%を上回ってD Iは△3.9と、いずれもマイナスを示し、採算面では悪化基調で推移した。

業種別にみると、建設業が増益基調で推移しており、小売業、サービス業も前年をやや上回っている。

4. 資金繰りにについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に

図-4 今期の資金繰り (対前年同期)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (-1.1)	9.9	79.1	11.0
建設業 (16.7)	16.7	83.3	0.0
製造業 (-6.9)	4.5	84.1	11.4
卸売業 (-14.7)	7.3	70.7	22.0
小売業 (7.1)	9.5	88.1	2.4
サービス業 (0.0)	19.0	62.0	19.0

経済の窓

(平成2年度 第4・四半期)

景気動向
調査

平成2年度第4・四半期(平成3年1月～3月)の函館地域における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	320社	213社	66.6%
建設業	40	29	72.5
製造業	80	55	68.8
卸売業	70	50	71.4
小売業	90	54	60.0
サービス業	40	25	62.5

(注)本調査結果の中のD Iとある記号は、デیفュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目について増加(好転・上昇)企業割合から、減少(悪化・低下)企業割合を差し引いた値を示しています。

前期:2年10月～12月実績

前年同期:2年1月～3月実績

今期(1月～3月)の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業23.8%に対し、「横ばい」企業54.1%、「悪化」している企業22.1%で、D Iは1.7と若干プラスを示している。

これを業種別にみると、建設業D I 11.5、小売業D I 8.9、サービス業D I 14.3がプラスだが、他は製造業D I △6.2、卸売業D I △9.7とマイナスを示しており、業種間に格差がみ

られる。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では「好転」企業32.0%に対し、「横ばい」企業51.7%、「悪化」企業16.3%で、D Iは15.7とプラスを示し、好転基調で推移した。

これを業種別にみると、各業種ともD Iがプラスを示しており、特にサービス業(D I 47.3)が好調に推移したほか、建設関係が民需を中心に好調を持続しており、生産活動や個人消費も順伸び、観光関係ではホテル・旅館業が昨年実績を更に上回る勢いをみせる等、総じて好調に推移した。

図-1 今期の業況(対前年同期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種(15.7)	32.0	51.7	16.3
建設業(15.4)	30.8	53.8	15.4
製造業(2.2)	23.9	54.4	21.7
卸売業(5.0)	22.5	60.0	17.5
小売業(26.9)	41.5	43.9	14.6
サービス業(47.3)	52.6	42.1	5.3

2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業26.7%に対し、「横ばい」企業47.2%、「減少」している企業26.1%で、D Iは0.6を示し、ほぼ横ばい状態で推移した。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」企業39.0%に対し、「横ばい」企業44.1%、「減少」企業16.9%で、D Iは22.1とプラスを示し、昨年実績を上回っている。

図-2 今期の売上額(対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種(22.1)	39.0	44.1	16.9
建設業(20.0)	32.0	56.0	12.0
製造業(0.0)	21.7	56.6	21.7
卸売業(17.0)	39.0	39.0	22.0
小売業(42.5)	55.0	32.5	12.5
サービス業(45.0)	55.0	35.0	10.0

湾岸戦争後の内外景気

三菱総合研究所 国際動向分析センター
専門研究部長 坂本俊造

湾岸戦争は地上戦突入という最悪の事態となりましたが、これも正味四日という短時日で終わり、最終的に決着を見ました。

昨年夏以来、世界経済にとって最大の暗雲が晴れたのですから安堵感が広がるのも無理からぬことですし、景気後退中のアメリカ経済の先行きにも楽観論がはじめています。

そのアメリカ経済ですが、昨年第4・四半期に年率二%のマインナス成長を記録したほか、今年二月の失業率が六・五%に上昇するなど、戦後九回目の景気後退期に入っています。

これに対し政策当局は二月初めに公定歩合を〇・五%引き下げて金融緩和策を鮮明にし、そのうえ今回の戦勝ムードもあって、不況の早期回復説が台頭したわけです。しかし今回の不況は自動車産業が深刻な打撃を受けているほか、不動産不況が金

融不況を誘発するなど、かなり根が深いものがあり、そう楽観はできないと思います。現に、三月に入ってから乗用車販売は、期待に反して不振が続いています。

次に欧州経済では、アメリカに次いで積極的に参戦した英国も不況にあえいでいます。さらにドイツでも、湾岸戦費負担や旧東独再建費用などの資金を賄うため増税を決定しており、インフレ懸念から金融引き締め気味の政策スタンスを維持しています。

こうしてみますと、欧米経済は、湾岸戦争という重圧が解消しても、即上昇気運という状況にはないと思われれます。他方、日本経済についてみますと、九〇億ドル拠出に伴う直接的な影響自体は軽微なものと思います。しかし、この二月で五十一年

月と上昇を続けてきた景気自体がすでに成熟局面に入っていたうえ、戦争に伴う先行き不透明感が加わったため、これまで景気を支えていた企業や家計が支出に慎重な態度をとるようになり、景気はなだらかな減速過程に入りました。

こうした動きを裏付けたのがまず第一に、日銀が三カ月に一度行っている企業短期経済観測調査で、三月五日発表分では、経営者の業況判断が悪化したことを示しました。

第二には三月十九日に発表された昨年十一月期の実質成長率が、年率換算で二・一％にとどまり、これまでの五・六％成長に比べ、かなりの低空飛行となったことが明らかになりました。需要項目別には、設備投資はまだ底堅い伸びを保っていますが、個人消費と住宅投資が前期比でマイナスになり、これまでの内需主導型成長にほころびが出始めたといえます。そのうえ、米国の自動車不況で、輸出減や現地生産抑制から、自動車メーカーの業績悪化、設備投資見直しという気運も生じ始めており、先行き景気がさらにスローダウンする懸念が強まっています。

これまで日銀は、人手不足や製品需給の逼迫、原油高などの

懸念から物価重視型の引き締め政策をとってきましたが、以上のような景況から物価・景気両にらみの政策にシフトしようとしています。

ところでこれまで日銀がとってきた政策の成果を考えてみますと、八九年度を中心に日本経済は、株式・土地資産が急速に値上がりし、いわゆる「バブル」が膨張しました。これに対して日銀は八九年五月以来、公定歩合を五回引き上げたほか、不動産向け貸し出し規制など引き締め政策を展開し、バブルの解消にかなりの効果をあげてきたと思います。

景気の先行き不透明感から、国内で金融緩和を求める声が強まっているうえ、米国も日独両国に金利引き下げの圧力をかけています。ただわが国景気は、まだ設備投資が完全に底割れする様子はありませんが、経済の健全性をとり戻す必要性はいぜん失われていませんから、政策転換は慎重に行われるべきだと思います。

こうしてみますと、湾岸戦争の早期終結により、世界景気は最悪の事態は回避できましたが、さりとて好況がただちに訪れると見るのは甘い見方といわざるをえません。

事業主、役員、家族専従者の方々に!!

経営者年金制度

(企業年金保険)

～ご加入のおすすめ～

制度の特色

日頃からつながりの深い
商工会議所を通じて

- 1、老後に高額な年金収入が得られます。
- 2、年金にかえて一時金でも受取れます。
- 3、役員退職金としても利用出来、一時に多額の資金を調達する必要もありません。
- 4、労災を始め十分な社会保障のない経営者の方々におくる万全の福祉制度です。



制度の内容

加入資格 会員事業所の事業主・役員・家族専従者の方々に、現在健康で正常に勤務している14歳7カ月以上70歳6カ月までの方です。(※75歳まで継続できます。)

掛 金 月額 10,000円 (1口) から、100,000円 (10口) まで掛けられます。

給付金

- 年金(確定年金)…5年以上加入して脱退したとき10年間支給されます。
- 一時金…加入者がこの制度を脱退したとき。
- 遺族一時金…加入者が死亡したとき、一時金に1口2,000円を加算して支給されます。

支給金額表(月額掛金50,000円(5口)の場合)

加入期間	給付金	退職一時金	年金(月額)
5年		3,381,000円	39,050円
10年		8,258,000円	95,450円
15年		15,292,000円	176,750円
20年		25,437,000円	293,950円
25年		40,069,500円	463,050円

★お問合せ、資料請求については、函館商工会議所会員課☎(23-1181)まで